平和マップで歩いてみました

自治体ではさまざまな平和に関する取り組みを行なっており、「平和マップ」を発行しているところもあります。けんせつ編集部では3つの自治体を取り上げ、当該支部の教宣部長の協力を得て、マップに掲載されているモニュメントを訪ねてみました。

旧275棟は弾丸工場
戦前は軍都と呼ばれた地域

明治新政府は都内を流れる石神井川を工業用水として利用し、滝野川や板橋に火薬製造所を設置しました。大正期に入って、軍の部隊や工場が広い土地を求めて赤羽や十条周辺に拡張・移転してきました。こうして軍の施設が集中し、北区の地域は軍都と呼ばれるようになりました。

軍に関連した建築物などを紹介している北区平和マップを頼りに、7月22日、北支部の中西昭一教宣部長と「東京第一陸軍造兵廠十条工場旧275棟」を訪ねてみました。この工場は北区十条台の一帯に広く展開していました。小銃や機関銃に使用する弾薬や薬きょう、火薬の製造を行なっており、その中で旧275棟は弾丸工場として使用されていました。

戦後、工場は米軍に接収され、「東京兵器補給廠・第4地区」として戦車の整備などが行なわれていましたが、1958年にはその一部が返還され、陸上自衛隊が武器補給処十条支所として使用してきました。その後、旧275棟を含む一部の施設が北区へ移管され、2008年6月に北区立中央図書館（通称、赤レンガ図書館）として旧275棟は保存されています。

北区

中西部長と一緒に旧275棟の外部と内部を見て回りました。レンガの壁面がきれいに残されているほか、鉄骨ラチス柱を見ることができます。また鉄骨トラス構造の小屋組みのようすも復元されています。中西教宣部長は「中央図書館があることは前から知っていたが、古い建物を残しており、それが弾丸工場として使われていたことは知らなかった。若い世代にも知らせていくことで貴重な経験をしてもらえるのではないか」と話してくれました。

北支部・中西部長

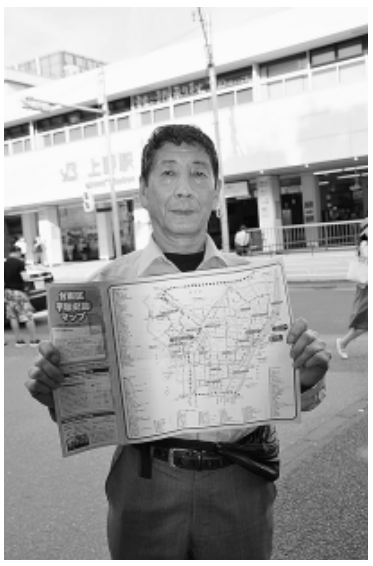
中央図書館の隣にあるカフェは、戦時中陸軍兵器工場だった赤レンガの建造物を利用している

北区平和マップは北区役所で無償配布されています。区内を3つの地域に分けて27カ所の戦跡などを紹介していますが、北とぴあ前に立つ北村西望作の「平和祈念像」を解説するコラムなども載せており、戦時中の北区の軍事施設だけでなく、戦後の平和を求める歩みも紹介しています。

上野公園に3石碑
揺らめく広島・長崎の火

7月19日、台東支部の遠藤顕寛教宣部長とJR上野駅で待ち合わせて、上野恩賜公園内にある3つの史跡をめぐりました。最初に訪れたのは、上野東照宮の境内にある「『広島・長崎の火』モニュメント、『二十世紀からの伝言』碑」。千羽鶴の下がった石壁の中央に鳩の形の像が飾られ、小さな火が揺らめいていて、鳩の像の下には、「核兵器をなくし永遠に平和を誓う広島、長崎の火」と彫られてあります。

台東区


台東支部・遠藤部長

火の由来については、1990年に広島の火は福岡県星野村、長崎の火は長崎の被爆瓦から点火されたものであることなど、詳細を記した案内板が碑の横にあり便利です。

上野東照宮境内にある「広島・長崎の火」モニュメント、「二十世紀からの伝言」の碑

「毎年行なっている平和行進を池之端で解散した後に、行進参加者の人たちが手を合わせに来たりします」と遠藤さんは話してくれました。この日、猛暑だったこともあり、人出も少なく、観光の外国人が碑の写真を撮っている程度でした。

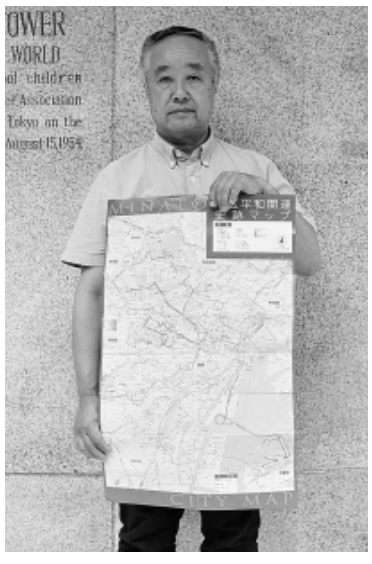
次に向かったのは清水観音堂の近くにある「母子像・時忘れじの塔」。これは、エッセイストの海老名香葉子が1945年3月10日の東京大空襲の惨禍を後世に伝えたいと2005年3月に建立し、東京都に寄贈したものです。「けんせつ」1780号（2005年4月1日号）では、除幕式の記事を掲載しました。子どもを抱いた母と母の前に立つもう一人の女の子の前方を見つめる視線がとても印象的な像です。

最後に紹介するのは、「忠魂碑」。京成上野駅側の公園入口から入ってすぐ右手にあります。もう100年以上前の日露戦争の戦死者、病死者等約200人の姓名が背面に記載されているとのことですが、訪れてみると周囲を草木に囲まれていて確認するのが困難なのが残念です。

マップは台東区のHPからダウンロードできますが、台東区役所、台東区立下町風俗資料館、各区民事務所、各地区センターなどでも配布されています。

鳩舞うこども平和塔
「米軍2基地返還させたい」

7月24日、港支部で教宣部長を務める清水弘之さんと、都立芝公園内の「こども平和塔」を訪れました。この塔は、第二次世界大戦後、戦争犠牲者を慰め、世界の永遠の平和を願う全国の小・中学生たちによってできた塔で、上部には平和の象徴であるハトが3羽描かれています。清水さんによると、毎年5月に「みなと健康まつり」もここで行なわれ、港支部も焼きそばなどの模擬店を出して参加。ステージでは子どもたちが、『ぞう列車がやってきた』を歌うのが恒例とのこと。


港支部・清水部長

こども平和塔。右奥は愛宕グリーンヒルズMORIタワー

港区

こども平和塔は、港区の平和関連史跡MAPに載っており、同じ「芝・白金高輪コース」にある「平和の灯」は、平和行進の引き継ぎ式会場です。MAPには、他にも「麻布・六本木コース」「赤坂・青山コース」「ベイエリアコース」があり、全4コース33カ所が紹介されています。

清水さんは、港区には2カ所も米軍基地があることを知ってほしいと話します。まず、都立青山公園に隣接していて、現在はヘリポート、星条旗新聞社、独身将校宿舎として使用されている赤坂プレス・センター。そして、山王ホテル士官宿舎の代替施設として米軍に提供されたニューサンノー米軍センター。トランプ大統領が来日時、横田基地から入国し、六本木ヘリポート経由で移動したのには、日本を属国扱いしてるようで強い違和感を感じたそうです。

清水さんは最後に、「2つの米軍基地を私たちの運動で日本に返還させ、近い将来このMAPに平和関連史跡として掲載されるよう頑張りましょう」と力強く訴えました。

＊平和関連史跡MAPは、港区HPからダウンロードするか、同区役所4階の人権・男女平等参画担当で手に入れることができます。